

第4回訪問（6月8日～10日）

訪問地：岩手県一関市、盛岡市、宮古市、久慈市
支援聖書：聖書40冊、絵本聖書216冊、マンガ聖書28冊

これまでの3回の訪問では主に宮城県や岩手県南部沿岸地域の被災地を訪問しましたが、今回は岩手県内陸部、及び北部沿岸地域の教会を募金部の菊池、伊藤をはじめ4名の職員で巡回いたしました。8日に東京を東北新幹線を出発して最初に訪れた日本基督教団一関教会では、礼拝堂内部の漆喰の壁が地震により崩落する被害がありましたが隣接する附属の保育園は無事ということでした。子どもたちのために絵本とマンガの聖書を贈呈してまいりました。ただ同じ一関市にある千厩教会では地震により会堂、牧師館ともに大きな被害を受け使用は困難な状況におかれており、津波による被害を被った沿岸地域ばかりでなく内陸地域の地震による被災の状況にも目を注いで行かなければならないことを改めて思われました。



日本基督教団 宮古教会にて



宮古コミュニティー・チャーチに聖書贈呈

翌9日、盛岡市から車で約2時間ほどかかり宮古市内へ。津波による被害が街のあちこちに残り、道路の信号は今も消えた状態でした。特に漁港のある海岸地域の被害が大きく瓦礫や建物の撤去作業が進められていました。お訪ねした日本基督教団宮古教会は礼拝堂と牧師館が1メートル以上の津波の浸水を受けたということですが、汚泥を床下から掻き出しても壁の間に入り込んだものは掻き出せないため腐食が進み、汚泥から粉塵が立ち上ったり匂いがわいたりすることもあり、今後は建て替えなければならないということでした。その後でカトリック宮古教会を訪問しましたが、宮古市内の教会はどこもボランティアの皆さんの活動拠点となっていました。会堂に寝泊りしながら毎日、市内や近隣町村の家々に出向いて奉仕作業を行っていて、地域の中で復興に向けて共に立ち上がる姿勢が強く印象に残りました。

次に訪れた単立の宮古コミュニティー・チャーチは会堂が高地にあるため被害はありませんでしたが、岩塚牧師はボランティアさんたちと一緒に避難所や仮設住宅をこまめに訪ね歩いて生活物資を届けつつ声をかけたり話を聞いてあげたり炊き出しなどを行って、被災者の方の精神的な面でも支えとなるような活動を行えるように心がけていきたいとおっしゃっていました。今、被災地では避難所での生活から仮設住宅への入居が進められていますが、宮古コミュニティー・チャーチでは仮設住宅を一軒一軒訪問して一般の被災者の方に生活物資とともに聖書をお渡しして福音を伝える働きもされているとのことでした。避難所や仮設住宅に何度も足を運ぶ中で信頼も生まれ、手渡す聖書を受け取られる方も多いそうです。今後、聖書の必要性を強く感じました。



カトリック久慈教会の皆様と

その後、私たちは海岸線を北上して久慈市に向かいました。10日はカトリック久慈教会をお訪ねして聖書を贈呈しつつ教会の皆さんとお交わりの時をもち、八戸市を経て東京に戻ってまいりました。

震災から3ヶ月近くたち、被災地の教会の先生方の精神的、肉体的疲労も積み重なっていると聞きました。また、その一方で救霊のみわざがおこされ、一般の方々に聖書をお渡しすると受け取られる方が多くいるので聖書をもっと送ってほしいという声も各地でお聞きました。特に子どもたちが安心して読める絵本聖書やマンガ聖書の要望も非常に高く、これからもそのような現地の声をお聞きしながら必要に応じた聖書頒布の支援を広げていければと思っています。これからも皆様からのお祈りとお支えを、どうぞよろしくお願いいたします。